

## 『川崎大師教学研究研究所紀要』の発刊に寄せて

川崎大師教学研究研究所は、川崎大師平間寺ご貫首故高橋隆天貌下のご発願によって、昭和四十八年の弘法大師ご誕生一千二百年讃仰記念事業の一環として、前年の昭和四十七年十二月一日に設立されました。その目的は、当山の教学振興並びに教化の充実を図り、さらに専門員の研究活動に対しての寄与が、高らかに謳い上げられて誕生しました。

さらに平成九年の開創八七〇年の記念事業の一環として、平間寺隣接の東門前の地に、新・教学研究所の本部棟・講堂が建設され、内外に賑々しく披露されました。

川崎大師教学研究所の活動としては、『佛教文化論集』の刊行、佛教文化講座、公開講演会等があげられますが、その中、特に『佛教文化論集』の刊行は、川崎大師平間寺の十年目ごとの大開帳の奉修にあわせて、研究所の教授、研究員をはじめ宗内外の碩学、新進気鋭の研究者に広く寄稿をよびかけるものであり、すでに十一輯を数え、さらに川崎大師開創八九〇年慶讃記念号として第十二輯が計画され具体化しております。

さて、先頃の研究所メンバーの改編にともない、新しく教授一名、そして研究員三名の補充がおこなわれ、ここに組織として教授・研究員による構成と、そこに任期制が導入され、毎年の紀要の刊行が定められました。まさに、当紀要は創刊号にあたり、研究所としてさらなる飛躍の一步ということになるにちがいありません。従来の『佛教文化論集』は、当山開創記念、弘法・興教両大師のご遠忌

やご誕生記念、そして平間寺の吉例大開帳の記念のための刊行であり、必ずしも研究所じたいのヴィ  
ヴットな報告ではなかったような気がします。毎年一回の『紀要』の発行は、まさしく研究所の研究  
活動の近況報告であるということができます。

振り返ってみますと、昭和四十七年に設立された研究所は、二十五年後の平成九年に、本部棟、講  
堂が建設されました。そして今回の『紀要』の発刊は、その十九年後にあたります。このように、研  
究所の歩みは遅遅たるものでありますが、着実に内容の充実と発展を遂げつつあることは、誠に喜こ  
ばしいことではないでしょうか。これからの研究所の機能するところは、従来の紙媒体による研究成  
果の報告のみならず、種々なる方法によって佛教、密教、そして弘法大師の教えを一人でも多くの  
びとに伝えるための中枢となっていかなければなりません。

この『紀要』発刊を契機として内外に川崎大師教学研究研究所の存在をより広く深く知らしめ、他の研  
究・教育機関と連携し共に社会教化と、人びとの幸福のためのエンジンとして貢献していかななくては  
なりません。

平成二十八年三月二十一日

川崎大師教学研究所々長

福田亮成